

製品名: DMBT1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10032**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	265kDa

抗原情報

遺伝子名	DMBT1
別名	GP340
遺伝子 ID	1755.0
SwissProt ID	Q9UGM3
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

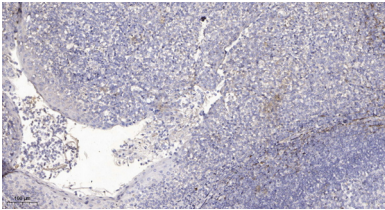
ヒト染色体 10q の配列欠損は、ヒト癌の進行と関連している。この遺伝子は、髄芽腫細胞株における欠失に基づいて単離された。この遺伝子は、胎児肺では 6.0、7.5、8.0 kb の転写産物として、成人肺では 8.0 kb の転写産物として発現するが、7.5 kb の転写産物に

については特徴づけられていない。コードされるタンパク質前駆体は、複数のスカベンジャー受容体システインリッチ（SRCR）ドメイン（SRCR-interspersed domains: SID）を含む糖タンパク質である。転写産物バリエーション 2（8.0 kb）は、糖鎖認識とは独立してサーファクタントタンパク質 D に結合することが示されている。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した（4℃で一晩）。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した（室温、30 分）。